

平成27年 5月 7日
千葉大学医学部附属病院

「糞便移植療法」という新しい治療法に取り組んでいます。
腸内フローラに健康な人の腸内細菌を注入し、腸炎などの症状を改善

千葉大学医学部附属病院（病院長 山本修一 千葉市中央区亥鼻 1-8-1）は、糞便移植療法（FMT）の臨床研究（研究代表者 横須賀 収 消化器内科科長）にて取り組んでおり、今年3月に1例目を実施しました。

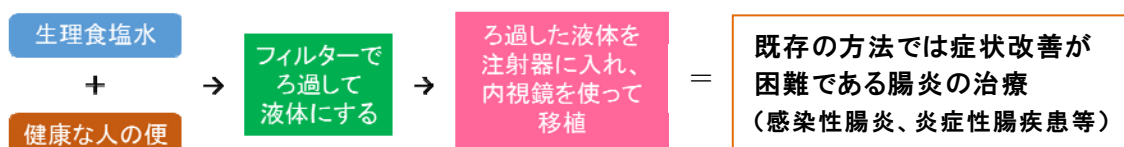
糞便移植療法は、健康な人の便と生理食塩水を混ぜて液体化したものを、内視鏡を使って患者の腸内に注入するという新しい治療法です。正常な腸内細菌を患者の腸内フローラ（腸内細菌が多数集まっている場所）に注入することにより、感染性腸炎、炎症性腸疾患など抗生物質や既存の薬剤では治療の難しい腸炎の症状改善を目指します。

すでに米国など海外では普及していますが、国内では慶應義塾大学病院が2014年に開始し、注目を集めております。現在、当院におきましても多くのお問い合わせをいただいているところです。

これまで当院消化器内科において、患者さんのご協力をいただき、安全性を実証することができました。今後も積極的に取り組んでいきますが、この治療法を実施するためには、倫理的な配慮の下、ドナーとなる方は二親等以内の親族であることを義務付けており、また当院消化器内科で実施されている臨床研究により定められた様々な検査をパスした『健康な糞便』を有している方を選別しなければなりません。受診を希望する患者さんには、ドナーとなる方の糞便の選別が比較的困難であることに留意していただく必要があります。

報道機関の皆様には、本治療法について理解を広めるため、ご協力くださいますようお願いいたします。

<移植の流れ>



<中川 倫夫 助教（消化器内科）のコメント>



糞便移植療法は、難治性の感染症腸炎、炎症性腸炎、過敏性腸症候群などに有効であると報告されております。安全性を確認しつつ、本研究の成果を多くの患者さんの治療に役立つものと考えたいと考えています。

取材に関するお問い合わせ先
千葉大学医学部附属病院
総務課 広報係 下條、渡辺、丸山
Tel : 043-226-2225 Fax : 043-224-3830
E-mail : xae6025@office.chiba-u.jp